

病院選びの決定版！

手術数でわかる

トップ病院の手術はここがすごい

外科医を本気にさせる紹介状とは？

いいいい病院 2018

独自調査
6655
病院

命を預ける病院がこの中に
がん／心臓病／脳疾患／首・腰／股・ひざ／眼／難聴
ほか

全国＆
地方別
ランキング



本誌は収益の一部を日本の対がん活動のために寄付します

抗がん剤の本誌の表紙は、抗がん剤加工を施してあります。

紹介状の具体例

紹介先の医師名

病院名や医師の名前が最初に入る。患者が「どの病院に行くかは自分で決めたい」という場合などは、このスペースが空欄のまま作成されることもある。

診療情報提供書

「診療情報提供書」というのが、紹介状の正式名称。患者の個人情報と現在までの診療をまとめたもの。紹介先の病院（大病院など）でひな型を用意している場合も多い。

ごきか 御机下

医師独特の敬称。御机下とは「私のような者の手紙は机の下に置いてください」というへりくだった表現。「御侍史」という敬称もあり、「直接お届けするのは失礼なので御侍史（秘書など）にお渡しいたします」という意味。

CH:06-40-02
三奉会

紹介先医療機関等名 戸田中央総合病院

担当医 心臓血管外科 横山 泰孝 先生

御机下

紹介元医療機関の所在地及び名称 〒121-0813 東京都足立区竹の塚5-11-8
井上病院・井上クリニック
電話番号 03-3850-5771

内 科 医師氏名 早川 貴美子

紹介元の医師名

紹介元の医師の名前が入る。印鑑も必要。

患者氏名	井上 花子	様	職業	
生年月日	昭和18年 8月6日	性別	女性	
患者住所	埼玉県草加市〇〇1-23-1	電話	048-123-〇〇〇〇	

傷病名

紹介元の医師が診断した傷病の名称が入る。

傷病名	重症大動脈弁狭窄症
紹介目的	精査御加療のお願い
既往及び家族歴	高血圧、糖尿病、高脂血症、結核性髄膜炎
症状経過及び検査結果	平素より大変お世話になっております。 重症大動脈弁狭窄症の診断で精査御加療をお願いしたい74歳女性です。 聴診上頸部まで放散する胸骨右縁第3肋間を最強点を持つLevin 3/6の収縮期駆出性雑音を聴取します。 心臓超音波検査ではAVA 0.64cm ² 、peak PG 124mmHgでした。術前検査は心臓超音波検査しか出来ておりませんが、早急に戸田中央総合病院を受診した方が良いことをお話ししました。
治療経過	病歴などはカルテ記載を添付いたします。お忙しいところ恐縮ですが術前精査をして頂いたうえで御加療よろしくお願ひ申し上げます。
現在の処方	別紙参照
備考	心臓超音波検査のレポートを添付します

症状経過

ここまでの治療の経過を具体的かつ簡潔にまとめる。入りきらない情報は、カルテを添付するなどして別紙で対応する。

紹介目的

紹介目的には、「手術加療のお願い」など具体的な依頼内容が書かれることもあるが、早川医師は「手術するかどうかは外科の先生のご判断なので、具体的には書きません」という考えだ。

備考

添付書類を記入するほか、患者側の希望や紹介元の医師からのお願いなどを記載することもある。

現在の処方

薬の処方などは、別紙にまとめることが多い。

備考 1.必要ある場合は紙に記載して添付すること。
2.必要がある場合は画像診断のフィルム、検査の記録を添付すること。

封筒のなかには何がある!?

紹介状とはどんなもの

医師から別の医師へ、患者を託すときに添えられるのが「紹介状」だ。厳重に封がされているだけに、中身が気になるのが人情というもの。ここでこそ、その封を開けてみよう。



そもそも、紹介状とは何だろう。言葉のイメージから、「うちの患者さんをよろしくお願ひします」というあいさつ程度の手紙のように思うが、実際は違う。正式名称は「診療情報提供書」。左の見本のように、患者の個人情報と治療経過の報告書などのCD-Rや、血液検査のデータなどが添えられることも多い。多くの場合、紹介先の病院の書式にならって紹介元の医師が

作成するが、書式にルールはないようだ。これまで数多くのクリニックや中小病院から紹介状を受け取っている、心臓外科医の横山泰孝医師はこう話す。「原則として患者さんの名前・住所・電話番号、病名、主訴経過、既往歴があればいいのですが、何枚にもわたる丁寧な紹介状もあれば、数行で簡潔にまとめられたものもあり、紹介してください先生個性がでます」ところで、紹介状はなぜ必要

なのか。目的のひとつは、病院を移ってもこれまでどおり治療が受けられるようにすることだ。初診時の診察時間が短縮され、同じ検査は受けずに済む。また、紹介状を添えて患者を送る制度があることで、病院の役割が明確になる。クリニックや診療所は、地域の「かかりつけ医」として日常的な病気や軽いや手術、入院は総合病院や大学病院などが担う。患者の症状を見極めつつ、紹介状を介して役割が違う病院が連携をとるのだ。

大切な患者だからこそ紹介状に心をこめる

そしてもう一つ、大切な意味がある。医師どうしの信頼関係の構築だ。横山医師に紹介状を書く機会も多いという、内科医の早川貴美子医師は言う。「かかりつけ医と患者さんの間には、長く培われた信頼関係があります。月に一度受診する患者さんでも、年間12回も会う関係です。その大切な人を託すのですから、紹介状には気持ちがいりこみます。『繊細な方です』などご配慮をお願いします」とどこ書き添えることもあります。横山医師もこう話す。「外科医は、紹介して下さる地域の先生方がいてこそ手術ができるのです。お預かりした患者さんを、最善の治療をしてお返ししようと考えています」一見、無味乾燥にも見える紹介状だが、医師たちの熱い思いが凝縮されている文書なのだ。

話を聞いた人

内科医



井上病院・井上クリニック
理事長
早川貴美子 医師

外科医



戸田中央総合病院
心臓血管センター-外科部長
横山泰孝 医師

取材・文/神 素子、イラスト/あらいしづか

